



市

街地を北へ流れ、石狩川に合流する豊平川。上流には豊平峡ダムや定山

溪ダムを有し、市民の水道水の大部分を賄っています。また、下流の河川敷にはサイクリングロードや公園などが整備されたり、花火大会やいかだ下りの会場になったりするなど、市民の暮らしに密接にかかわっています。



豊平川の

サケの歴史

昭和の初め、サケの捕獲や稚魚の放流といった増殖事業が行われるほど、豊平川には多くのサケが上っていました。

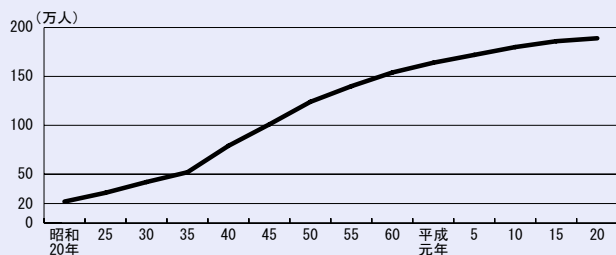
ところが、急激な人口の増加や都市化などによって、豊平川の水は次第に汚れ、昭和28年ころにはサケの姿はほとんど見られなくなりました。その後、昭和45年ころから下水道の整備が急ピッチで進んだことで豊平川の水質は改善され、環境基準をクリアするようになりしました。しかし、それでもサケは戻ってこなかったのです。

そこで、昭和53年、昔のように「豊平川にサケを戻そう」というカムバックサーモン運動が起こり、翌年にサケの稚魚を放流。それから2年後の昭和56年に、放流されたサケが豊平川へ戻ってきたのです。札幌市民は大いに沸き立ち、このときから、サケは豊平川復活のシンボルとなったのです。

●人口の増加と都市化

昭和20年の札幌の人口は約20万人。昭和45年には100万人を突破し、地下鉄の開通や札幌オリンピックの開催、政令指定都市への移行など、高度経済成長の波によって都市化が進んでいきました。昭和59年には150万人を超え、現在は190万都市となっています。

札幌の人口



札幌の人口は約20万人。
※現在は、約190万人。

昭和20年

人口が100万人を突破。

昭和45年

地下鉄南北線（真駒内駅～北24条駅）が開通。

昭和46年

札幌オリンピック開催。
政令指定都市へ移行。

昭和47年

地下鉄東西線（琴似駅～白石駅）が開通。

昭和51年

昭和56年

サケが豊平川へ戻ってくる。

昭和54年

第1回目のサケ稚魚の放流が行われる。

昭和53年

カムバックサーモン運動が始まる。

●カムバックサーモン運動

下水道の普及により豊平川の水質が改善されてきた昭和53年、北海道大学助教授吉崎昌一氏を代表に「さっぽろサケの会」が発足。母なる豊平川にサケを呼び戻そうと市民へ呼び掛け、「カムバックサーモン運動」がスタートしました。この運動は次第に市民へ広がり、国や北海道、札幌市、北海道警察などの行政も巻き込んだ大きな取り組みとなりました。こうして、昭和54年3月に20万尾、4月には80万尾のサケの稚魚が豊平川に放流されました。

それから2年後の昭和56年、放流したサケが豊平川へ再び帰ってくるという感動的な出来事が起こり、昭和57年には市内の小学校児童がサケの遡上（さくじょう）に障害となる床止め（川の中の段差）に「魚道（魚の通り道）」を設置するよう総理大臣にお願いするなど、市民運動は大きく展開していきました。



第1回の稚魚放流の様子

参考文献／北海道サケ友の会20年のあゆみ「碧」